

第2例会 2021.7.14 (水)

■出席率 会員73名中55名出席75.34% 修正60 82.19%
メイクアップ5名

◆会長挨拶 一條 浩孝 会長



うっとうしい梅雨の最中、私たちの目を楽しませてくれたアジサイもいつの間にか終わりを迎えています……。ということで今回は松崎さんのような高尚な挨拶を目指したのですが、私には全く才能が無い、ということが分かりました。大変残念ではございますが、普通にやらせていただきます。

先日の日曜日、福島 RC 主催、県北第一分区共催で、ゴミスポが行われました。ゴミ拾いと競技を合わせたような試みでしたが、当クラブからは大橋ご夫妻、横山りつ子さん、菅野良二さん、伊藤弘子さん、恵利紀之さん、それから成蹊高校から沢山の IAC 生が参加されました。これで福島市内もとってもきれいになったのではないかと思います。参加された皆さん小雨振るなか、蒸し暑い中お疲れさまでした。

さて、いよいよ今日から通常の例会が始まります。そしてその前に会報がデジタル化しました。スマホでいつでもどこでも簡単に見られるようになっています。そういう環境に無い方には印刷をして提供させていただきました。会報委員会の皆さんありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

先週私は所信表明のなかで例会を奉仕の理念を学ぶ場にしましょう、というお話をさせていただきましたが、それがいよいよ始まります。

まず始めに「ロータリーの友読みどころ」です。例会のプログラム名はロータリーの友読みどころ、ではありますが、確かに先週廣澤委員長がおっしゃったように単なる読みどころの紹介ではありません。ロータリーの友を使って学ぶ、という試みです。廣澤委員長がどのように実行していただけるのかとても楽しみにしています。

それともう一つ、例会に参加する例会にしましょう、と申し上げました。今日はお二人の方に、スピーチで参加していただきます。渡辺雅浩さんと齋藤高裕さんです。お二人は私たちのためにしっかりと準備されてきました。本当にありがとうございます。これから続く31名の方の先陣を切っていただきます。

例会には「あの人のスピーチが楽しみだな」と思って足を運び、帰る時には「聞いて良かった」と感じていただけるものを目指したいと考えております。それを皆さんと共にこれから一年をかけて作っていきたいと考えておりますので、よろしくご協力の程お願いいたします。

◆地区役員委嘱

大橋廣治 諮問委員・パストガバナー

廣澤俊樹 地区研修委員

林 克重 ロータリー財団委員会 副委員長

R L I 委員会 DLチーム委員

大野順道 ロータリー財団委員 補助金委員会委員長

松崎弘昭 R L I 委員会 DLチーム委員

渡邊正義 会員増強・ロータリー情報委員会 会員増強委員会 委員長

宍戸隆司 ロータリー財団委員会 財団資金管理委員会 委員

河谷 元 2021-22年度規則・手続委員会 委員



◆7月お誕生日祝

安斎常克さん 昭和36年7月24日生

喜古勝弘さん 昭和27年7月8日生

鈴木恒昭さん 昭和17年7月14日生

野地利雄さん 昭和21年7月3日生

橋脇英行さん 昭和40年7月28日生

お誕生日おめでとうございます。



◆ロータリーの友読みどころ 廣澤俊樹ロータリー情報教育委員長

ロータリーの友の読みどころについては本年度は、ロータリーの友を使って、ロータリーについて勉強する企画となりました。

今回は、ロータリーの友の歴史について学びました。1952年に東京RCから53クラブに分かれるときに、共同の意識を持つために発刊されたそうです。米山記念奨学会も同年発会されたそうです。

毎回、パスト会長が講義していただけるそうです。



◆会員スピーチ1 渡辺雅浩 会員



「職業と感動」

今年度の職業奉仕委員会の委員長を担当させていただくことになりました渡辺雅浩です。今年度は、例年になく33名という多くの皆さんに、会員スピーチをお願いさせていただくことになりました。私自身スタートからお声かけの段取りが悪くて出遅れてしまいましたので、自分自身が第1回目のスピーチを行わざるを得ない罰ゲームの結果となりました。

まず、自分は数種の職種を経験させていただきましたが、社会人としての大半は営業職を行なって参りました。広告関係の会社からスタートし、その後医薬品の卸商社に、この業種の営業が現在の仕事に次ぐ長い勤務先でした。今考えれば、この仕事がいろんな意味で最も過酷だったような気がします。

売って来ないと帰るに帰れない日もあり、「どこかでチャンスがあったら辞めてやる!」「さて、次は何をやったら良いのか?」この2つのことで、頭の中は行ったり来たりしておりました。

その頃、ある出会いがあり、私が最も苦手な「機械」を扱う商社へ、「機械が嫌いでもわからなくても売る手段はある」と、あの手この手で大奮闘。さて、この会社の本腰を入れようと思っていたら、会社の経営破綻。一瞬にして社員が全員解雇となりました。突然起きた出来事で路頭に迷い、家族には会社が無くなってしまったことを言うにも言えず、行先が無いのにスーツを着て毎朝出かけるという不思議な生活を送る羽目になりました。

そして、当時の営業所のメンバーで、いろいろな方に助けられながら、何とか平成4年11月に現在の会社をスタートしました。

経営破綻を経験した私たちは、同業他社とは違うオリジナル性を出して行こうということで、従来の金属を加工する工作機械の他に、当時東北地方では盛んだった電子業界の機械も売って行こう、東南アジアも攻めようというテーマで突っ走りました。皆様方に支えられ、徐々にご飯も食べられるようになりました。現在は国内の他に海外の拠点として、シンガポールの事務所からも東南アジアを中心に営業活動をしています。引き続き工作機械、電子業界の表面実装機械の販売・輸出入を行っております。おかげさまで、来年の11月で設立30周年になります。「あの日から」何とか今まで生き延びさせていただき、本当に皆様に感謝したいと思います。

次に、スピーチのタイトル「感動」のお話をさせていただきます。

福島南ロータリークラブで「大声杯」等でも支援いただいている福島リトルリーグに、スタッフとして以前まで10数年間在籍させていただきました。子供たちと夢を追いかけて生活してきた中で、沢山の思い出がありますが、その中から2つほど感動的な出来事を紹介させていただきます。

ひとつめは、神戸から引っ越して来て入団した兄妹のことを思い出します。兄ちゃんは野球よりサッカーが得意で、冬の練習にサッカーを取り入れた時は俄然ハッスルしておりました。妹は根本的に野球が好きで、どんなにつらい練習や長時間走らせても諦めず、男の子たちと張り合いました。2年生で入団した妹でしたが、4年生の夏にお父さんの仕事の関係でまた神戸に戻ることになりました。妹が在籍していたマイナーは当時30数名もおり、なかなか試合には出れませんでした。そこで、妹が練習に参加出来る最後の日に「N美の福島リーグ引退試合」を企画し、N美に「どこの守備をやりたいか?」と聞くと、小さな声で「ピッチャー」と答えたので、「よし、思い切って投げてこい」と皆に励まされながら当番したら、2イニングでしたが2三振を奪いました。

試合を終え、皆で道具を片付けしているとN美が見当たりません。

するとマウンドに居たN美の行動にビックリしました。

ビニール袋にマウンドの土を集めて入れている最中でした。「N美」と呼ぶと、今までで一番の満足の顔でした。「どんな思いで」その土を入れた袋を大切に持ち帰ろうと思ったのか? N美の姿を見て周りに居たスタッフを含め、自分も涙が止まらなくなりました。N美だけは

神戸に行っても地元のリトルリーグに入ったそうです。

ふたつ目は、選手たちの頑張りにより、2015年8月愛知県蒲郡市などで行われた選抜リトルリーグ全国大会に東北代表として出場が出来ました。一回戦の相手は四国代表の西条リーグ、初回に3点をこちらが先取したものの、中盤から徐々に追い上げられ、最終的に逆転され7-8の僅差で福島リーグは敗れました。西条リーグの監督は、泣きじゃくりながらベンチを後にする福島の選手一人一人に「実力は君たちの方が上だった、素晴らしい試合有難う」と声をかけ励ましてくれました。「相手チームを思いやる精神」この監督が率いるチームには、やはり1点差があったんだ。と勝てなかった理由はここだったのだと思い、深く感動致しました。

最後に、この頃も在籍していた時期ですが、2007年の東北大会は準決勝で岩手の水沢リーグに敗れ、全国大会を逃し、悔しい思いをしました。現在メジャーで大活躍中の大谷選手の「人生一番の試合」とは、この試合だったようです。2017年4月に発売した週刊文春に載った詳しい内容のコピーをテーブルの上に置きましたので、興味があればご覧になって下さい。以上、会員スピーチとさせていただきます。

◆会員スピーチ2 齋藤高裕 会員



「考え方を変えた2度の入院生活」

梅雨空のした紫陽花がきれいに咲いている本日、会員スピーチを拝命いたしました齋藤高裕でございます。福島南ロータリークラブに入会し早数年、諸先輩の姿を参考に勉強させて頂いているところでございます。

皆様の中にも予期せぬ入院生活を送られた先輩諸氏の方もいらっしゃるかと存じますが経験の浅い私の話を笑って頂ければ幸いです。

さて、私幼少のころより時々原因不明の高熱を出し両親を心配させておりました。初めての入院は幼稚園入園前の3歳から5歳あたりと記憶しております。県庁前にありました県立医大にかかりつけ医からの紹介で入院致しました。原因不明の為、脊髄から髄液をとり検査しましたが、当時の検査レベルでは見つけることができませんでした。入院後しばらくすると平熱に戻り無事退院の運びとなりました。やがて成長し体力も付いてくると、高熱もでる回数が減り数年に一度位の間隔となりました。自分では風邪が長引く程度と思っておりました。さらに成長し大学、就職、結婚、子供も誕生。地元に戻り仲間もでき充実していた時の事でした。私自身その頃は幼く会社の方針等のプレッシャーに負けて生活しているようでした。おのずとお酒の量も増え体にも良いことはありませんでした。(現在は一滴もお酒は飲みません。)皆様の予想通り体調を壊し、かかりつけ医院からの紹介で日赤病院に入院の運びとなりました。この入院は約2ヶ月におよびここでの経験が「考え方を変える一度目の入院生活」でした。それまでの私は小さいことも気にするいわゆる典型的なA型人間でした。一度目の入院生活で人生の先輩方から「いいか今のような生活を続けると俺のようになるぞ」とのありがたいお言葉を頂ました。その頃の病室はテレビなどなく洗面所に共同で見られるテレビがありました。何人か言葉を交わす方がいらっしやいましたが、朝になると見当たりません。痕跡も残さずいなくなってしまうのです。そう病院には違う出口がありそこから出ていったのです。そんな方を何人か見ていると、今までの考え方の間口が狭く小さいことに気がついたのです。まるで解脱(げだつ)したかのように世界が明るく見えたのです。やがて退院してしばらくすると俗社会にまみれ還俗(げんぞく)してすっかり忘れてしまうのはなぜでしょうか。人間は忘れてしまう生き物と思いました。

唯一続いているのはお酒を飲まないことです。

「考え方を変える2度目の入院生活は十九年後の平成二四年四月初旬の事です。最初は疲れから風邪をこじらせいつもの発熱の症状でした。近所の医院に通っておりましたが良くなりません。そうこうしているうちちょっと違う症状が出てきました。それは食事をするともものすごい腹痛がおきるのです。自分で驚くくらいの腹痛でのたうちまわって苦しむのです。どうにも我慢できず会社にいる妻に助けを求めました。私のただならぬ様子に妻は近くの医院の先生に強い口調で風ではないのではないかと。様子がおかしいので至急血液検査をして頂くよう求めました。何とか血液検査をしました結果を見ない状態で腹痛に再度襲われ、紹介状を頂いて日赤病院を訪ねました。紹介患者専用の先生に問診、触診、血液検査をして頂いたところ即入院となりました。触診で肝臓、胆のうが炎症によりはれ上がっていたのです。そう重病人だったのです。妻が付き添わなければ入院までもう少し時間がかかり病状は悪くなっていたのではないかと思いました。入院後各種検査により幼少期より高熱が出ていた原因が判明しました。それは膵胆管合流異常という先天性の奇形が原因で膵臓癌、肝臓癌、胆のう癌、胆管癌の原因にもなるものでした。原因がわかったときの担当の先生は病棟の向こうから心なしか珍しいものを見つけたように嬉しそうな感じがしました。病室で話を聞きましたら膵胆管合流異常という奇形で薬では完治させることができない、このままだと同じ症状を繰り返し将来癌になる確率が約20%位あり

ますとのことでした。将来癌にならないよう外科手術で回避する方法がありますとお聞きしました。結構人の人生を大きく左右するようなことを簡単おっしゃられて行きました。その時の私はどっぴりと世間にはまり欲にまみれておりましたので、どんな手術かもわかっていないにも関わらず即答で手術しますと答えておりました。手術は執刀された外科の先生、病院関係者の皆様のおかげ様で約5時間で終わりました。術後約2週間で退院となり自宅と会社でリハビリに励んでおりました。退院6ヶ月は無事過ごすことができましたが、忘れもしない十一月二十三日再度高熱を出し病院に行くと再入院になってしまいました。ここからが長い道のりです。一週間ほどで退院しましたが年が明けて一月二十一日に高熱により入院、三十一日退院、二月十九日高熱により入院、二十四日退院と入院の間隔が短くなってきました。

執刀された先生にこんなに高熱がでるのは何か原因があるので再度手術をお願いしましたがどうも私の体は少し人と違うようで再手術の承諾を得られませんでした。執刀された先生が他の病院に転出となり違う外科の先生が担当となりましたが、先生が変わっても高熱が出るのに変わりはありませんでした。この先生には忘れられない言葉をかけて頂きました。「君みたいに熱が出ただけですぐ入院する患者はいない。僕の患者さんは点滴を受けて通院で治療している。」私は高熱でうなされながら心の中で叫びました。「ハー何言ってんだこのやぶ医者！こっちも好きで入院しているわけじゃね～んだよ！そっちが勝手に入院と言ってるんだ！ふざけんじゃね～」品のない発言で申し訳ありませんお許してください。ちなみに血液検査の値は炎症反応、GTPの値も悪く内科的には入院治療の値でした。それから悔しいので熱が出ても点滴通院で治療してましたが七月にどうにもならず入院治療になり退院して3ヶ月後の十月連休前夜間診療で点滴治療翌日も熱が下がらず入院、なんとこの月は2回入院しました。あまりに病状がひどいのである先生が内緒で医大で内科的治療（内視鏡）を行っており多くの患者さんの病状に改善が見られると教えて頂きました。誰から聞いたとは言わず担当の先生に相談（治療と転院）したところいい返事が頂けませんでした。ただ院内で内科に移ることは許可頂き内視鏡手術を2回実施しましたが2回とも患部まで届かず失敗に終わりました。この時の内科の担当の先生はすぐ医大の消化器内科に紹介状を書いてくれました。医大に転院し内視鏡手術を行いましたがいまだに患部まで届きませんでした。内視鏡メーカーにある特殊仕様の内視鏡をレンタルして頂き再度挑戦し何とか患部を目視し治療しましたが、どこまでも人と違う作りの体は完治するところまで至りませんでした。手術の吻合部が狭窄してしまう為、そこにバイパスのパイプを通す治療方法しかなく、吻合部が狭い為太いパイプを通せない。その為バイパスパイプが小さく詰まりやすく比較的短いサイクルでの交換が必要でした。バイパスパイプを交換したり吻合部を広げたりを繰り返し数年が過ぎて行ったころついに内視鏡が入らなくなってきてしまいました。治療の終盤は体が拒否反応を示し治療台に乗る前から嘔吐してしまい何とか麻酔で眠らせてもらう状態でした。最終的に医大から転院を進められ栃木県にある自治医科大学に転院しました。ここは内視鏡手術では東大病院に次ぐところのよう設備も先生方も数が違っていました。紹介状やカルテなどの検討を実施し内視鏡手術を行ってみるとのこと一条の光が差し込んだのを記憶しています。転院後最初の治療は

内視鏡によりパイプを入れ胆汁を体外に出す治療でした。ここまでうまくいったのですが、次の治療の時内視鏡が届きませんでした。これは最初に手術した時、感染症防止の為腸と肝臓を接続する位置を放したのと、腸の癒着が激しくなってきたり内視鏡の通る道が狭くなっていることに起因したものでした。このまま社会復帰は望めないのも違う方法を模索して頂き、肝臓内にできた石を超音波で粉碎する方法をとりました。全てを粉碎することはできませんでしたが、この治療によりだいぶ症状が改善されました。生活に特に注意することはなく今まで通りで良いとの指導でしたが自分で体質改善等を実施しないと同じ結果になると感じ色々試してみましたが私にあったのは赤色の箱に入った薬用酒と同じ作用がある緑の箱に入った薬用酒でした。おかげ様でここ数年は高熱まで出ることはなく生活で来ております。

長々と私のことを申しましたが、2度の大きな入院生活で病気うつ、将来を悲観することもあまりなかったのは入院の時に感じた「人生一寸先はわからない、過ぎ去った時は戻らない。悩んで解決するなら悩めばいい、解決しないのであれば悩まない。」ということですね。

結びに皆様のご健康とご繁栄をご祈念し会員スピーチを示させていただきます。ご清聴ありがとうございました。

◆次回例会 2021. 7. 28

- ・ガバナー公式訪問 第1回ガバナー補佐訪問

◆2021. 7. 14 成蹊高校インターアクトクラブ

今年度最初の成蹊高校インターアクトクラブ例会が開催されました。
福島南RCからは、11名参加しました。
なんと今年度は1年生24人の大勢の入部があったそうです。
一條会長がスピーチを行いました。



今までの職業人としての様々な経験を紹介し

「人を感動させる人になってください。」「日本一を目指してください。」という話に成蹊高校インターアクトも真剣にメモを取りながら聞き入っていました。